

X 史料編集事業

1. 事業概要

(1) 史料編集班の沿革

復帰前の昭和 42 年（1967）琉球政府立沖縄史料編集所が創設され、復帰とともに沖縄県沖縄史料編集所と改称。昭和 61 年（1986）行政改革により県立図書館に併合され、沖縄県立図書館史料編集室と改組、平成 7 年（1995）沖縄県公文書館の設置に伴い移転、翌 8 年、史料編集業務が教育庁文化課所管の委託業務となり財団法人沖縄県文化振興会公文書館管理部（後に公文書管理部）史料編集室となる。平成 19 年（2007）指定管理者制度導入に伴い財団法人沖縄県文化振興会史料編集室と改名、平成 23 年（2011）組織改編により教育庁直轄となり、沖縄県教育庁文化財課史料編集班となる。

(2) 歴代宝案の編集・刊行

『歴代宝案』は、中・近世のおよそ 500 年にわたる外交文書集で、歴大かつ難解な漢文史料であるが、沖縄の対外通交貿易史および外交交渉史を解明するうえで第一級の史料であり、東アジア世界の動向をも知りうる貴重な史料である。歴代宝案編集事業の目的は、本文を校訂し、訳注本を作成して、これを利用しやすい形に編集することによって、今後の歴史研究の進展に役立て、あわせて一般への普及を図り、国際化時代における県勢発展の基礎資料として活用できるようにすること、にある。

沖縄県教育委員会では、平成元年度（1989）から『歴代宝案』の編集事業に着手し、平成 3 年度（1992）から刊行を開始した。校訂本は諸本を校合し異同を注記した本を 15 冊、訳注本は校訂本の漢文を全文読み下し文に改め、語注やルビを付し、『歴代宝案』の理解を補完するもので同じく 15 冊、計 30 冊の刊行を予定している。これまでに校訂本 14 冊、訳注本 7 冊の合計 21 冊、歴代宝案編集参考資料 13 冊を刊行した。平成 24 年度から沖縄振興特別推進交付金による「琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業」として採択され、歴代宝案の編集刊行が大きく推進される見通しとなった。

(3) 沖縄県教育委員会と中国第一歴史档案馆との「協議書」に基づく交流事業

歴代宝案の編集作業においては、国内外の関連史料も参照することが必要不可欠である。中国に残る膨大な琉球関係資料を活用するため、平成 3 年（1991）3 月、「清代の档案マイクロフィルムの相互交換に関する覚書」の調印が行われた。その後「覚書」を「協議書」と改め、平成 21 年には五度目の調印が交わされた。これまで 10 回にわたってマイクロフィルムの提供があり、総計は 3,323 件、1 万 1,571 コマにのぼる。また、沖縄と北京で交互にシンポジウムを開催し、これまでに 10 回開催され、『琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』10 冊を刊行した。毎年、档案馆から参考人として研究者 2 名を招聘し、延べ 44 人が報告を行った。平成 17 年度（2005）から『中琉歴史関係档案』の出版委託を行い、27 冊を刊行した。

(4) 新沖縄県史の編集・刊行

新沖縄県史編集事業は平成 5 年度（1993）にスタートした。先に刊行した「沖縄県史」は明治の琉球処分から沖縄戦までを取り扱った近代史であったが、「新沖縄県史」は、先史から現代までの全時代と自然環境等を対象とした体系的な歴史書を編纂し、沖縄県の「正史」として、沖縄の歴史認識、文化意識の一層の活性化を促すことを目的とする。本事業は沖縄県の教育主要施策に位置づけられている。

平成 6 年（1994）、「新沖縄県史編集検討委員会」のもとで「新沖縄県史編集基本計画」がまとめられたが、その後平成 9 年（1997）「新沖縄県史編集委員会」が設置されて基本計画の見直しが行われ、平成 10 年（1998）「新沖縄県史編集基本計画」が策定された。平成 22 年（2010）、再び基本計画の見直しが諮問され、平成 24 年（2012）には新たな「基本計画」が策定された。

これまでに、「沖縄県史各論編」を 4 冊、「沖縄県史資料編」を 24 冊、「沖縄県史図説編」を 1 冊、「県史ビジュアル版」を 13 冊刊行した。その他「沖縄県史研究叢書」、「概説 沖縄の歴史と文化」、「沖縄県史だより」や各種目録、紀要などを刊行するとともに、各種の資料収集調査を実施

している。今後は、沖縄県史の基礎資料ともなる「資料編」の刊行に平行して、各テーマによる「各論編」の編集・刊行を進めていく。

2. 主な活動

(1) 委員会の開催及び編集・刊行活動

新沖縄県史編集委員会（1回）・専門部会（自然環境1回、沖縄戦4回、女性史3回、図説編前近代3回）、刊行計画検討専門部会（3回）、歴代宝案編集委員会及び作業部会（3回）など計18回の委員会及び専門部会を開催した。

また『沖縄県史 資料編 24 自然環境新聞資料』『歴代宝案 校訂本 第10冊』『歴代宝案編集参考資料 13 清代福建省地方官年表（新訂・増補版）』『第10回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』『中琉歴史関係档案 嘉慶朝（六）』『中琉歴史関係档案 嘉慶朝（七）』『中琉歴史関係档案 嘉慶朝（八）』『沖縄史料編集紀要』第37号、『沖縄県史だより』23号などを編集・刊行した。

(2) 史料調査収集・交流事業（史料編集事業）

①-1 新聞照合調査（新県史）

調査目的：『県史資料編 自然環境新聞資料』掲載記事の不明部分に関する照合調査

調査期間：平成26年1月28日（金）～2月1日（土）

調査場所：国立国会図書館東京本館

調査員：城間恒宏（指導主事）

概要：『県史資料編 自然環境新聞資料』に掲載する明治・大正期の新聞記事の不明部分を原紙と照合し確認する。

①-2 新聞照合調査（新県史）

調査目的：『県史資料編 女性史新聞資料（大正・昭和編）』に関する所収資料調査

調査期間：平成26年3月26日（水）～28日（金）

調査場所：国立国会図書館東京本館

調査員：小野まさ子（指導主事）

概要：『県史資料編 女性史新聞資料』に掲載する大正・昭和期の新聞記事の不明部分を原紙と照合し確認する。

② 写真撮影（新県史）

調査目的：『県史各論編 自然環境』にかかる写真撮影（空撮、地形、地質、植物、動物等々）

調査期間：平成26年3月11日（火）～27日（木）にかけて随時

調査場所：与那国島、沖縄島北部、慶良間諸島、南大東島、奄美大島、沖永良部島

③ 交流事業（歴代宝案）

1) 中国第一歴史档案館より参考人招聘

招聘目的：歴代宝案の編集作業に資するため、歴代宝案編集委員会において、中国第一歴史档案館の研究者・専門家の意見を聴取する。

招聘期間：平成25年11月6日（水）～10日（日）

概要：徐杰（中国第一歴史档案館複製処副処長）・王少芳（同整理処二科科长）を招聘し、編集委員会での参考意見報告のほか、沖縄県立博物館・美術館、首里城などを視察。

2) 琉球関係資料集の出版委託

中国第一歴史档案館が所蔵する琉球関係史料を年代順に整理し、内容提要を付して出版する。

2006年（平成18）からスタートした事業で、これまでに27冊を出版した。

(3) 琉球王国の交流史に関する史料調査収集事業（沖縄振興特別推進交付金事業）

① 国内調査

- 1) 調査目的：琉球王国交流史に関する史料調査
 調査期間：平成 25 年 12 月 17 日（火）～21 日（土）
 調査場所：東北大学附属図書館
 調査員：漢那敬子（主幹）・野村直美（指導主事）
 概要：東北大学附属図書館狩野文庫において琉球関係史料の調査および史料撮影を行った。
- 2) 調査目的：琉球王国交流史に関する史料調査
 調査期間：平成 26 年 1 月 28 日（火）～2 月 1 日（土）
 調査場所：法政大学沖縄文化研究所・都立中央図書館等
 調査員：漢那敬子（主幹）・吉田敬（指導主事）・当山昌直（主査）
 概要：：沖文研の楚南家文書、都立中央図書館小西文庫の「琉球学制文事資料」などを調査。
- 3) 調査目的：『歴代宝案』校訂本の校訂に資するため
 調査期間：平成 26 年 3 月 27 日（木）～29 日（土）
 調査場所：法政大学沖縄文化研究所
 調査員：外間みどり（主任専門員）・野村直美（指導主事）
 概要：歴代宝案「乾坤本目録」の照合。
- 4) 調査目的：『歴代宝案』訳注本の校正に資するため
 調査期間：平成 26 年 3 月 29 日（土）～31 日（月）
 調査場所：東洋文庫・小島晋治先生宅
 調査員：野村直美（指導主事）・漢那敬子（主幹）・帆刈浩之（史料編集嘱託員）
 概要：歴代宝案訳注本第 8 冊担当の濱下武志・同第 12 冊担当の小島晋治先生と打合せを行った。

②国外調査

- 1) 琉球王国の交流史に関する国外史料調査（台湾）
 調査目的：『歴代宝案』訳注本および琉球王国交流史に関する史料調査
 調査期間：平成 25 年 8 月 5 日（月）～10 日（土）
 調査場所：国立故宮博物院図書文献館等
 調査員：漢那敬子（主幹）、野村直美（指導主事）、帆刈浩之（史料編集嘱託員）、
 赤嶺守・麻生伸一・前田舟子（調査員）
 概要：国立故宮博物院図書文献館では、同館の貴重資料デジタルデータ検索システム「清代宮中
 檔奏摺及軍機處檔摺全文影像資料庫」を利用し、琉球関係檔案の抽出及び複写を行った。
- 2) 琉球王国の交流史に関する国外史料調査（台湾）
 調査目的：琉球王国交流史に関する史料調査
 調査期間：平成26年 3 月12日（水）～15日（土）
 調査場所：中央研究院・台湾大学図書館
 調査員：野村直美（指導主事）
 概要：中央研究院では劉徐楓氏の協力を得て内閣大庫の檔案から琉球関係檔案を調査、閲覧。

(4) 歴史資料のデジタル化（沖縄振興特別推進交付金事業）

- ①琉球関係檔案史料のデジタル化・テキスト化（清代中琉関係檔案七編・台湾檔など 808枚/頁）
- ②琉球王国交流史関係史料のデジタル化（故宮博物院蔵軍機處檔など 1,723 枚）

(5) 諸外国との交流に関する歴史史料の編集・刊行（ベッテルハイム日記翻訳）

（沖縄振興特別推進交付金事業）

『沖縄県史 資料編 21 The Journal and Official Correspondence of Bernard Jean Bettelheim 1845-54 Part I (1845-51)』の翻訳（全 624 頁中、後半 280 頁の翻訳）